トハ全ク異ナツタ獨立ノ種デアルコトハ一目シテ明カデアル兩者ノ外形ハ多少相似テハ居ルガへびのきしのぶノ根莖ハたいわんくりはらんノソレニ比シテ優形デ可ナリ長ク橫走シ鱗片ヲ散生シテ居ル其ノ鱗片ハ彼レノソレニ比ブレバ非常ニ異ナツテ葉柄ハズツト長ク而カモたいわんくりはらんノハ略三角形ヲ成シテ居ルノニ反シコレハ圓形デアル、葉裏中脈上ニハ小鱗片ヲ散生シ囊堆ハ小形デ葉裏全面ニ散在シ囊堆中ニハ絲狀ノ飾絲ヲ混生シテ居ル、子囊ノ彈環ノ數ハ彼レヨリ少ナク胞子ハ却テ大デアル、たいわんくりはらんニアツテハ葉裏ニ彼レノ如キ小鱗片ハ見當ラズ囊堆ハ圓形ニシテ可ナリ大キク全面ニ散在スルコトナク殆ンド葉ノ中部以上ニ在ツテ中脈ノ兩側ニ單列或ハ數列シ往々隣者相連絡シテ橫ニ長形ノ囊堆ヲ形成スルコトガアリ飾絲ヲ混生シテ居ナイ以上兩者ノ相異ヲ略述シタガコレ丈ノ相異アルニモ係ハラズ專門家デアル田川君ガ葉柄ノ外ニ何ノ差モナイト云ハレルノハ實際へびのきしのぶガドンナ者デアルカヲ知ツテ議論シテ居ラレルノデアルカヲ疑ハザルヲ得ナイノデアルソレトモ以上ノ樣ナ特長ハ種トシテノ價値ナキモノトセラルルカ、兎ニ角自然物ノ研究ハ者ソノ者ノ研究デアツテ所謂机上ノ學問デハナイ、者ヲ比較スル對照物ノ認識無クシテ議論スルコトハ誤リヲ生ズルモトデ事實ヲ混亂ニ導キ將來ニ於ケル研究ヲ益々困難ナラシムルオソレガアリ學界ノタメ甚ダ憂フベキ事ダト思フ田川君ハ京都大學ニ於ケル新進有爲ノ而カモ唯一ノ羊齒專門家デアル君コソ今少シ愼重ニ責任ヲ以テ檢定シテイタダキタイノデアル、マダ書キタイコトハ澤山アルガ七輯ニ直接關係ガナイノデ之レデ擱筆スルコトニシヨウ。

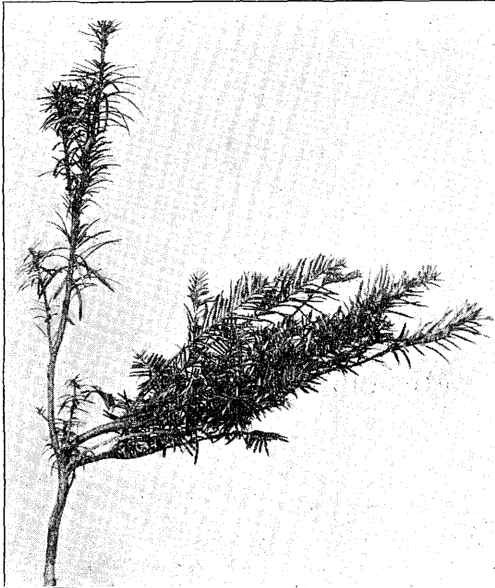
雜錄 Miscellaneous

○毬果植物異例二件

昭和 11 年ノ晩秋、東京市、大森區デひまらやすぎ (*Cedrus Deodara* LOURD) ニ雄花ヲ見タガ、ヨク見ルトソレガ寫眞ノ通リ花穗ノ先端ガ 1-2 cm 延ビテ、ソレニ葉ガ發生シテ居タ、ツマリ、雄穗ノ頂部ガ枝化シテ居ルノデアル。橫濱ニハ本種ノ古木、(恐ラク本邦最古ノ樹ノ1ツデアルラシイ) ガアルガ、余ハ勿論全部ヲ調べ上ゲタ譯デハナイケレ共大抵ハ尋常ナ雄花ガ着生スルノデ、叙上ノ大森植栽ノモノハ余ニハ異樣ニ見エタ。要スルニ此場



(An instance of Prolification of male inflorescens of *Cedrus Deodara* LOURD.)
ひまらやすぎノ雄花序ガ伸長シテ葉ヲ生ジタルモノ



(An atavism of *Cepharotaxus drupacea* var. *fastigiata*)
てうせんがやニいぬがやノ枝ヲ生ジタルモノ

合ニ於テハ花軸ガ小胞子葉以外ニ通常葉ヲ着ケタ事ニナルノデアラウ。之ニ似タ事ガすぎノ毬果ニモヨク出現スルモノデ、其ノ事ニ就テハ曾テ本誌第六卷第 11 號 p. 361 ニモ報ジテ置イタシ、マタ其後モ各地デ見タシ、HANS HOLISCH 氏モ Pflanzenbiologie in Japan (1926) p. 232 ニ寫眞迄出シテ居ルガ、(MOLISCH 氏ノハ雌花カラ更ニ抽出シテ葉ヲ生ジタ部分ニ更ニ數箇ノ雌花ヲ着ケタ念入リノモノデアル)、明カニ前記ひまらやすぎノ雄花ニ似タ現象ト解サレル。前者ハ雄花ニ現レ、後者ハ雌花ニ現レタトノ相違ガアル丈デアル。ソコデ雄花ヲ一般ニ花ト見、若シ雌花ヲ花序ト見ルナラバ花軸ノ尖端ニ葉ヲ生ジタノト花序ノ尖端ニ葉ヲ生ジタノトノ區別ニナル。シカシ

毬果植物ノ雌花ガ花デアルカ花序デアルカニ就テハ色々掛合話ガアル様ダカラ私ハ別ニ意見ハ述ベナイ。

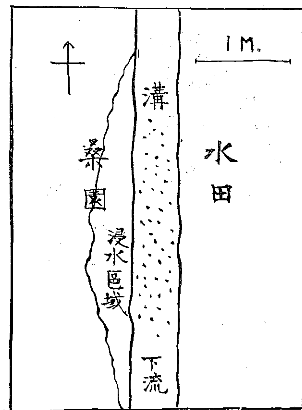
同年ノヤハリ秋ノ事デアルガ、知人ノ鈴木右二氏ノ園圃ニ數株ノてうせんがや (*Cepharotaxus drupacea* SIEB. et ZUCC. var. *fastigiata* PILG.) ガ培養サレテ居タ。

ソレニ、寫眞ノ様ニいぬがやノ性質ヲ現シテ居ル部分ト本來ノてうせんがや獨自ノ形態トヲ保有シテ居ル部分トヲ有スル數株ガ在ツタ。勿論カヽル事實ハ既知ノ事實デ、ソレガマタてうせんがやガ種トシテノ獨立性ヲ失フニ至ツタ原因デハアルガ、ソレニシテモ各株何レモ兩性質ヲ現シテ居タノガ面白カツタ。元來いぬがやノ發生上ノ事實トシテ初出葉（子葉ノ次ノ）ハいぬがや狀ノ葉ヲ出シ、後ニてうせんがや式ニナリ、更ニ其次ニマタいぬがや本來ノ形式ヲ執ツテ來ルモノデてうせんがやハ第二次的狀態ニ止ツタモノデアルト云フノデアルカラ何デモナイ事デハアルガ、此場合ニハてうせんがやガ部分的ニいぬがやノタドルベキ第三次的變態ヲ開始シタルモノトデモ云フベキモノデ、ツマリ一箇體ガ何カノ原因デ部分的ニ足ブミヲシタリ、前進ヲ開始シタリシテ居ルモノト云ヘルノデアラウ。（久内清孝）

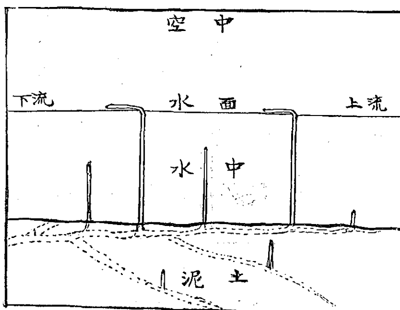
○桑ノ呼吸根

筆者ハ 1932 年 9 月 2 日、信州川中島村ニ於テ、桑園ノ傍ヲ流ルル水田灌漑溝内ニ多數ノ桑ノ根ノ呼吸根ヲ珍ラシク觀察シタ。溝ハ幅約 50 cm 泥土沈積シテ水深半減約 9 cm 夏季ノ溫リ水ガ停滯シテヰルト言ツタ方ガヨイ位ニ、流ルルトモナク流レ、堤ヲ洩レタ水ハ桑園ノ一部ヲ漬ケテヰタ。桑ハ多肉大葉ノ魯桑系統ニ屬スル「熊本」デ樹齡壯年期、樹勢强健、夏秋蠶專用トシテ根刈ニ仕立テラレ、ソノ株カラ發スル桑棒ノ高サハ容易ニ人ノ身丈ヲ沒シ、根ハ畦畔ヲ過ギテ溝ノ泥土中ニ磅唐伸張シ頗ル元氣ニ見エタ。

然シ乍ラ、浸水區域（第 1 圖參照）ノモノハ夏季八月不慮ノ浸水ニ長期遭遇シ頗ル呼吸困難、生理ノ正常ヲ失シタラシク、遂ニ溝ノ泥土中ヲ横走スル根カラ珍ラシク呼吸根ヲ發シテヰルノデアツタ。



第 1 圖 桑ノ呼吸根發生地見取圖 cot ハ呼吸根ヲ略示スルモノ



第 2 圖 水中ヲ直上シユク桑ノ呼吸根但シ流ハ極メテ緩ク水深 9 cm